

秀吉の瓢箪の馬印（豊公馬印之瓢）

この瓢箪型の馬印は、実際に戦場で秀吉（1537-1598）が使ったと考えられている。軍旗は日本語では馬印と呼ばれていたが、これは文字どおり馬につける旗印という意味である。この瓢箪型のものは馬印と呼ばれ、秀吉のシンボルであった。馬印は戦国時代（1467-1568）の戦闘において司令官の位置を示すために使用された。秀吉が最初の頃に勝った戦いとの関連から、瓢箪は秀吉にとって戦の勝利の象徴となった。この本物の馬印は一つの瓢箪の形をしているが、秀吉との関連で有名な千成瓢箪は江戸時代の物語に由来するフィクションである。それは、戦に勝利するごとに馬印に新たに瓢箪を1つずつ足していった結果、最後には1000個にもなった、という伝説である。この馬印は藪之内家によって保存され、後に豊国神社に寄贈された。